

令和2年度 高岡第一高等学校学校評価

建学の精神

- 一、祖国の道義を興し、親の幸福を祈る人格
- 二、礼儀を尊重し、正しい判断力に基づく行動
- 三、潜在能力を抽出しつつ、愛情に導かれる教育

教育目標・教育方針

教育目標

建学の精神(大目標)を基調とし、真に人間尊重の理念にたつて、つねに文化を創造し、国家、社会の平和と福祉に貢献しうる心身ともに健全な人間の育成をはかる。

教育方針 (教育目標を実現するための5つの中目標)

1. 親の幸福を祈る人たるを道德の根本とし、愛校心を郷土愛、祖国愛、人類愛へと発展させ、豊かな人間性を養う。
2. 礼儀を重んじ、つねに正しい判断に基づいて行動できる習慣、態度を養う。
3. 各人のもつ個性を開発し、その資質才能を伸ばし、自己の能力適性に応じて進路を決定させる。
4. 健康と安全を重んずる習慣・態度を養い、強い気力と実践力を育てる。
5. 自主性と創造性を養い、つねに高遠な理想をもち、これに向かって努力する気性を育てる。

今年度の重点課題・アクションプラン

重点目標1. アクティブラーニングの導入など授業改善をすすめ、生徒の学習意欲を高めると共に、生徒の学力向上を図る。また、ICT教育の導入のための環境整備を一層推進し、授業への活用の研修を進める。

達成目標

- ・家庭学習時間を昨年度よりも1時間増やす生徒の割合を7割とする。
- ・意欲的に授業に臨んでいると感じる生徒の割合を7割とする。
- ・全教員が積極的にICT機器を用いた授業を行う。

方策

- ①定期考査の振り返りをしっかり行う。
- ②互見授業参観を2回以上実施し、互見授業参観シートを提出する。
- ③教職員のICT教育推進の理解を深め、積極的に利用する意識を涵養する。

具体的な取組状況

- ・ICT教育に関わる研修会への参加を促したり、教科ごとにICT機器を用いた授業についての情報交換会・研修会を開催した。
- ・ICT機器を用いた授業を必ず1回は導入し、それを互見授業で実践するように働きかけた。
- ・コロナ禍における休校期間中、オンライン授業をはじめ課題配信などについて研修、研究を進めた。

評価

- C
- ・ICT機器を用いた授業に関して、教員により温度差があった。
 - ・互見授業参観を徹底できず、参観しない教員、参観シートを提出しない教員もいた。
 - ・オンライン授業や課題配信などについての問題点・課題が整理できた。

次年度への課題

- ・再来年度より生徒一人に一台のタブレットを持たせる予定であるが、発出すると想定される問題点を次年度中に整理し、スムーズにタブレットを使いこなせて、十分な学習効果がでるように期したい。

| | |
|---|---|
| 重点目標2. 生徒に基本的な生活習慣を確立させると共に、高い規範意識を持たせ、社会の一員としての自分を自覚する生徒を育成する。 | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ（髪型や制服着用）や挨拶の励行をはじめとし、時間を厳守し、節度ある生活態度を育成する。 ・「ダメなものはダメ」という指導と共に非社会的・反社会的行動の未然防止に努める。 ・他者を尊重し、いじめを絶対にしない、許さない環境を作り上げ、いじめゼロを実現。 ・携帯電話やSNSなどの適切な使用方法を身につけさせ、情報リテラシーを育成する。 |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ①全教員が一丸となって遅刻・服装・マナー等に関する指導に取り組み、イエローカード指導を継続する。 ②遅刻及び服装の乱れの多い生徒については個別指導を徹底する。 ③ネット活用や交通安全に関わる講座やHR、生徒会を通して情報リテラシー、交通安全に関する意識の高揚をはかる。 |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、校長をはじめ教員が当番制で玄関前指導を実施した。 ・定期的に服装指導を行い、不適切な生徒に対しては継続的に指導を行った。 ・学期ごとにいじめアンケートを行い、いじめについての状況を把握した。 |
| 評価 | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・髪型再検査を必要としない生徒数が大半を占めるようになった。 ・元気に挨拶をする生徒が増えた。 ・交通事故発生件数は激減したが、交通マナーに関する苦情が数件あった。 |
| 次年度への課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・高岡第一高校生として自覚と誇りを持たせ、身だしなみ・言葉遣い・挨拶・正しい判断力に基づく行動をしっかりとできるよう継続的に指導をしていかなければならない。 |

| | |
|--|---|
| 重点目標3. 将来を見据えた進路指導に取り組み、生徒に自分自身の個性や適性を理解させ、生徒の希望する進路実現を支援する。 | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者共に第一志望への進路の実現を達成する（8割）。 ・生徒個々の実態把握し、適切な進路指導を実践すると共に1ランク上の進路目標を設定し、実現に努める。 ・国公立大学20人以上合格させる。 |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・「進路のしおり」を有効に活用し、生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導を実践する。 ・キャリアサポート部と学年が密接に連携をとり、適切な進路行事（各種ガイダンス、講話など）を実施する。また必要に応じて、進路行事の見直し・再検討を行う。 ・全教員が協力しての面接指導、小論文指導、学習指導を実施する。 ・就職ガイダンス・企業見学会などを実施し、自己の興味・関心、能力・適性の理解に努め、職業意識を高める。 ・進路指導について、卒業時に生徒にアンケートを実施し、生徒の意向を把握する。 |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を学期毎に実施し、生徒の進路希望を把握して進路指導に生かした。 ・進路講演会、進路別授業などを行い、生徒の進路意識を高めた。 |
| 評価 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数30名以上をはじめ生徒の希望に沿った進路決定を概ね実現することができた。 |
| 次年度への課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・入試改革に伴い変化する入試制度の周知と生徒への情報提供を徹底し、より適切な指導を継続する必要がある。 ・担任のみならずチーム高一、即ち学校全体で生徒の進路実現を図っていかなければならない。 |

| | |
|--|---|
| <p>重点課題4. 学校行事，部活動への積極的な参加を促し，社会性・協調性やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> | |
| <p>達成目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事に対して各生徒に役割分担させ、積極的に参加し、生徒の満足度を高める。 ・積極的に部活動に参加させ、部活動への参加生徒の割合を8割とするとともに、中途退部者を減らしメリハリのある学校生活を送らせる。 |
| <p>方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ①各行事ごとに、アンケートを実施し、生徒の満足度、参加度をはかる。 ②各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。 ③部員調査を年度当初および学期ごとに行い、部員数の変化を調べる。 |
| <p>具体的な取組状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各行事ごとに、アンケートを実施し、生徒の満足度、参加度をはかった。 ・部員調査を年度当初と年度末に行った。 |
| <p>評価</p> | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため高校総体が中止なったり、活動が縮小されたにもかかわらず、その代替大会のTOYAMA2020では、多くの部活動が好成績を収めた。 ・体育大会は中止となったが、開催にこぎつけた一高祭では、準備期間が短かったにもかかわらず、かなりの成果を上げ、満足したという生徒数が大半を占めた。 |
| <p>次年度への課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中での学校行事という認識のもと、工夫を凝らし生徒が積極的に参加するよう指導して必要がある。 ・生徒会活動・部活動もコロナ禍の中でも工夫して活発な活動を目指したい。 |